

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 H.O

1. はじめに

私は2月21日～3月24日までの約1ヶ月間シンガポールのパヤレバ地区に留学しました。パヤレバ地区はシンガポールのチャンギ国際空港から約1時間ほどのマレー系の方々が多く住む地域です。TMC アカデミーのパヤレバキャンパスに1ヶ月間通いました。

短期留学の目的は、英語力の向上に加え現地での生活を通じて多文化への理解を深め、自立心を育むことです。異なる価値観や生活様式に触れること



で国際的な視野と柔軟な思考力を身につけるきっかけにしたいと考えました。

2. シンガポール概要

シンガポールは小さな都市国家であり、多くの民族・文化、そして言語の多民族国家です。国語はマレー語。公用語は標準中国語、マレー語、タミル語、英語であり、現地の方によると、映画を見ていると4行の字幕で画面の下半分が埋まることもあるそうです。

留学先をシンガポールに決めた理由として治安が良く、安全であることはもちろんですが、多民族国家であり、日系の方々も多くおられるため日系の病院などがいくつか存在しています。そのため日本の薬剤師が現地の日系病院などで活躍できる機会があるということ、中医学や漢方に興味があり中華系の方々が多く中医学が盛んなシンガポールに留学先を決めました。

シンガポールで感じた文化や生活習慣の違いについては、街には様々な宗教や文化が混ざり合っていて、祝日一つとっても、旧正月やイスラム教のハリラヤ、ヒンドゥー教のディーパバリなど、様々です。次に、食文化についてです。シンガポールでは「ホーカーセンター」と呼ばれる屋台街が人気で、チキンライス、ナシレマなど、多国籍な料理を安く楽しむことができました。食で

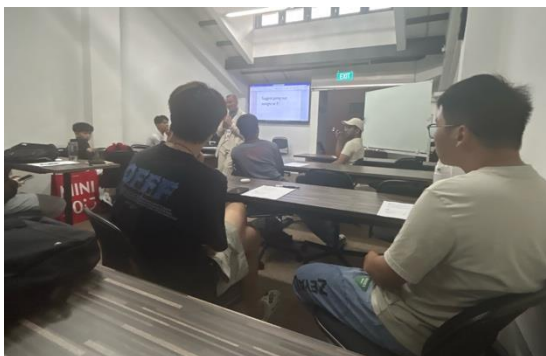
も多文化を“味わう”ことができるという点がとても魅力的でした。また、公共のマナーや法律が非常に厳しく、例えば電車の中での飲食は禁止されており、ポイ捨てやガムの持ち込みも法律で制限されています。そのため、街は非常に清潔で安全です。さらに、シンガポールでは英語が公用語ですが、シングリッシュと呼ばれる独特な話し方が特徴的です。慣れない発音ではじめは会話するのに苦戦しましたが文化や生活習慣の違いを肌で感じることができました。

3. 学校について

私が通学した TMC アカデミーはシンガポールの私立の教育機関であり、英語学習プログラムをはじめ、英語教授法や IELTS などのテスト対策コース、修士号取得コースなど様々なコースを提供しています。

英語コースは1日3時間・5時間から選択でき、3時間コースはテキストを使った総合英語の授業、5時間コースは3時間コースの内容に加え、日替わりのテーマ別授業(演習)が2時間あります。私は5時間の方のコースを選択しました。授業は12:30～18:15で、前半が演習の授業で後半が総合英語の授業でした。演習授業ではスピーキングがメインで日常的に使えるフレーズをペアワークやグループワークを通して実践的に学ぶことができました。時々授業内で英語の映画を鑑賞する時間があり、授業で習ったフレーズの実用性を感じることができました。後半の総合英語の授業ではテキ

ストを用いて、listening や grammar を中心に学習しました。特に英語で手紙や記事、物語を書き先生に採点してもらうアクティビティでは文脈にあった自然な表現や細かいニュアンスなどを学ぶことができたので非常に力になったと実感しました。



4. シンガポールの医療

シンガポールでは、中医学が慢性疾患の管理、痛みの緩和、予防医療などの分野で補完的な役割を果たしており、中医学の長所として身体全体のバランスや調和を重視し、個々の体質や症状に合わせた治療を行うことができる、慢性疾患への対応が可能、副作用の少なさなどが挙げられますが、科学的エビデンスの不足、診断基準が主観に依存、急性疾患への対応力が西洋医学より劣るなどの短所があり西洋医学と中医学それぞれのメリットを活かした統合が進められているそうです。

以下の写真は現地の中医の病院と漢方薬のお店に尋ねた際のもので、薬が
量り売りで売られていて、お店の奥で薬が製造されていました。



5. 最後に

生活習慣や文化の違いを実感すると共に様々な民族の方々が互いに配慮し、
受け入れ合い共存しているとゆうことが非常に素晴らしいと感じました。しか
し、お店で店員さんに声をかけてもわからないと言われてたり、冷たかったりだ
とか少し親切心にかける方が多い印象で、日本の人々の暖かさを実感した瞬間
もありました。英語でのコミュニケーション力の向上や異文化に対する理解と
柔軟な対応力や自信を持って話す力、主体性を向上させることができました。

これからも英語力を磨き様々な場で活躍できるような人材になれるように努力していきたいと思います。最後になりましたが、国際交流委員会様をはじめ私の留学に携わってくださった皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。